硝酸チアミン 10mg・塩酸ピリドキシン 100mg・酢酸ヒドロキソコバラミン 1.044mg 錠

溶出試験 本品 1 個をとり,試験液に水 900mL を用い,溶出試験法第 2 法により毎分 50 回転で試験を行う.溶出試験開始 90 分後,溶出 液 20mL 以上をとり,孔径 0.45 μm 以下のメンブランフィルターで ろ過する.初めのろ液 10mL を除き,次のろ液を試料溶液とする. 別に定量用酢酸ヒドロキソコバラミン(別途酢酸ヒドロキソコバラミン (日局)と同様の方法で乾燥減量及び定量法を実施しておく)約 0.011g に 対応する量を精密に量り、水に溶かし、正確に 100mL とし、A 液と する.また,硝酸チアミン標準品を 105 で 2 時間乾燥し,その約 0.011g を精密に量り,水に溶かし,正確に 100mL とし, B 液とする. さら に,塩酸ピリドキシン標準品をデシケーター(シリカゲル)で4時 間減圧乾燥し,その約 0.011g を精密に量り,これに先の A 液 1mL 及び B 液 10mL を正確に加えた後,水を加えて正確に 100mL とし, 標準溶液とする.試料溶液及び標準溶液 20 μ L ずつを正確にとり, 次の条件で液体クロマトグラフ法により試験を行い、試料溶液のヒド ロキソコバラミン,チアミン及びピリドキシンのピーク面積 ATa, ATb 及 び *ATc* , 並 び に 標 準 溶液のヒドロキソコバラミン , チ ア ミ ン 及 び ピ リ ド キシンのピーク面積 ASa, ASb 及び ASc を測定する.

酢酸ヒドロキソコバラミン,硝酸チアミン及び塩酸ピリドキシンの90分間の溶出率がそれぞれ85%以上,80%以上及び80%以上のときは適合とする.

酢酸ヒドロキソコバラミン($C62H89CoN13O15P \cdot C2H4O2$)の表示量に対する溶出率(%) = $WSa \times \frac{ATa}{ASa} \times \frac{1}{Ca} \times 9$

硝酸チアミン (C12H17N5O4S) の表示量に対する溶出率 (%)

$$=WSb \times \frac{ATb}{ASb} \times \frac{1}{Cb} \times 90$$

塩酸ピリドキシン (C8H11NO3・HCl) の表示量に対する溶出率 (%)

$$=WSc \times \frac{ATc}{ASc} \times \frac{1}{Cc} \times 900$$

WSa:換算した乾燥物に対し,含量補正を行った定量用酢酸ヒドロキソコバラミンの量 (mg)

WSb:硝酸チアミン標準品の採取量(mg)

WSc: 塩酸ピリドキシン標準品の採取量 (mg)

Ca : 1 錠中の酢酸ヒドロキソコバラミン $(C62H89CoN13O15P \cdot C2H4O2)$ の表示

量 (mg)

Cb :1 錠中の硝酸チアミン(*C12H17N5O4S*)の表示量(mg)

Cc : 1 錠中の塩酸ピリドキシン($C8H11NO3 \cdot HCl$)の表示量 (mg)

試験条件

検出器:紫外吸光光度計(測定波長:210nm)

カラム: 内径 4.6mm, 長さ 15cm のステンレス管に 5 μm の液体クロマトグラフ用オクチルシリル化シリカゲルを充てんする.

カラム温度:25 付近の一定温度

移動相:1-オクタンスルホン酸ナトリウム 1.1g に水を加えて正確に 1000mL とした後,リン酸で pH2.5 に調整する.この液 900mL にアセトニトリル 300mL を加える.

流量:ヒドロキソコバラミンの保持時間が約3分になるように調整する. システム適合性

システムの性能:標準溶液 20 µL につき,上記の条件で操作するとき,ヒドロキソコバラミン,ピリドキシン,チアミンの順に溶出し,ヒドロキソコバラミンとピリドキシンの分離度は2以上である.

システムの再現性:標準溶液 20 μL につき,上記の条件で試験を6回繰り返すとき,ヒドロキソコバラミン,ピリドキシン及びチアミンのピーク面積の相対標準偏差は,いずれも2.0%以下である.

定量用酢酸ヒドロキソコバラミン 酢酸ヒドロキソコバラミン (日局). 硝酸チアミン標準品 硝酸チアミン (日局). ただし, 乾燥したものを定量する とき, 硝酸チアミン ($C_{12}H_{17}N_5O_4S$)99.0%以上を含むもの.

塩酸ピリドキシン標準品 塩酸ピリドキシン標準品(日局)